



長手町 ～川祭り～



6月19日(日)長手神社にて、『川祭り』が行われました。実際は川はないのですが、神主さんが祝詞をあげた後、15ヶ所ある井戸にお供え物をしていきます。左側の藁の中には、“キュウリ・炊いた米・にぼし”が入っていて、河童のご飯です。毎年、「水に困らないように！」と願って行うそうですよ。



長手町 ～6月7日祭り～



7月5日(火)(旧6月7日)に、長手町地蔵堂で“6月7日祭り”が行われました。長手町の元祖『川村九郎左エ門』が宝永7年6月7日に亡くなったため、この日に川村九郎左エ門と戦没者の供養をしていて、今年で313回忌になるそうです。

供養が終わると、男性が小麦粉で作った『ずうし』を振る舞います。うどんのようなものなのですが、うどんと思っていたら左下の写真の食べ物が出てきました。調べてみると、『ずうし』とは『おじや』という意味があるらしく、まさしくうどんではなくおじやに近かったですね。出汁がしっかりきいていて、長手町の郷土料理を食べることが出来て良かったです(*^^*)



崎山地区人口統計表

(令和4年6月30日 現在)

	1区	2区	3区	4区	5区	6区	7区	8区	9区	10区	11区
男	73	75	47	58	56	53	76	96	94	39	43
女	85	83	62	73	66	63	85	110	91	53	52
合計	158	158	109	131	122	116	161	206	185	92	95

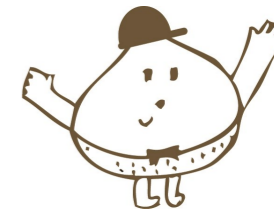
崎山地区全体 男 710名 女 823名 計 1,533名 (先月比+5名)

崎山地区まちづくり協議会 事務局 集落支援員 奥野

五島市役所 崎山出張所内 TEL 0959-73-6389

崎山地区まちづくり協議会

まち協通信 第27号



土のう袋作りました!!!



7月17日(日)に安全なわが街づくり推進会議で『土のうづくり』を行いました。全国で線状降水帯による非常に激しい雨が降り続いて、水害被害にあわれている報道をテレビでよく見かけます。崎山地区は今まで水害に見舞われていませんが、“備えあれば患いなし!”もしもの事態に備えて、今回土のうづくりを行いました。「やっぱりうちにも欲しかよ。」と思われた方、出来上がったものを崎山漁港に置いてますのでご自由にお取り下さい。その際は出張所に一言お願いします。また予備の土のう袋は崎山出張所に用意してありますので、気軽にお問い合わせ下さい(*^^*)

安全点検しました!(^^)!



7月17日(日)、安全点検を行いました。夏休み前に遊泳場所や公園に危険個所がないか、倒壊危険家屋がないか、安全なわが街づくり推進会議の皆さんで調べていきました。危険個所は後日、市役所の担当課に報告しました。

海の日クリーンアクション



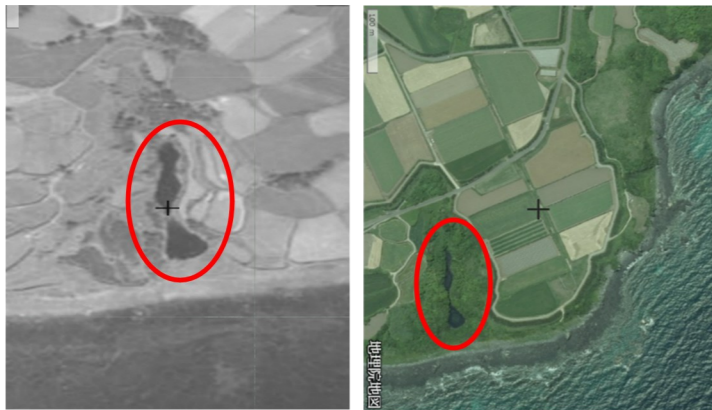
7月18日(海の日)に育成協主催の海のゴミ拾いを行いました。午前8時から白浜海浜公園、午前10時から覚仙海岸(カンナガタ)でありました。カンナガタでは海上保安庁から10名参加、中学生は部活別に参加したり、皆さん頑張っていました。

令和4年8月1日 発行

鬼岳火山群の溶岩台地（ジオ）に生きる “さっきゃまびと”

Vol.12
2022.8.1 発行
発行責任者
崎山地区まちづくり協議会
会長 古里 幸一
090-2393-1990

・・・昭和40年代自然の生け簀として使用された“イケンヤマ”・・・



西海国立公園鬼岳火山群（鬼岳・火の岳・箕岳・白岳）と鏡瀬溶岩海岸に囲まれた崎山地区。

世界にも誇れる自然に恵まれた私たち“さっきゃまびと”。

西海国立公園に指定されたのは昭和30年（1955）3月。私と同年代であるが、この歳になって、初めて川の

無い崎山地区に『自然の池』が有ることを知った。それも海岸に接しているのである。恥ずかしさより感動である。早速 国土地理院の航空写真で場所を調べるとちゃんと池が確認できた。上図左は昭和40年代で私が中学生の頃であり、右は現在である。字名も「池山」とあり、現在は向町に編入されている。人の手が入らなくなった現在の『池』周辺は藪林となり池が小さく見える。

この『池』が“さっきゃまびと”と共に生きてきたことをここで紹介したい。

先般、中学時代の先輩に紹介していただき、この「イケンヤマ」を生活の場にしていたという同窓生（下崎山町在住）に往時のことを聴くことができた。

昭和41年から44年頃、先輩の父親がこの池（一の池）を自然の生け簀として魚を養殖し、生活の糧としていた。池に浮かべていた小舟で、養殖していたクロウオやゴベ（カワハギ）等に小魚をミンチにし、餌として与えていたこと。満潮時には水深5mほどになり、干潮時でも深い場所では3mほどはあったこと。三の池はしょっぱく（塩っぱく）なく、一の池はしょっぱい。潮の干満により海水の流れがわかったと。往時は父親が購入したポンプで池の底のへドロを吸い上げしていたと中学時代の苦労話を懐かしく聴かせてもらった。儲けも少なく、三年程度でこの池での養殖を止めたとのことであるが、その後はここを訪れることもなかった。



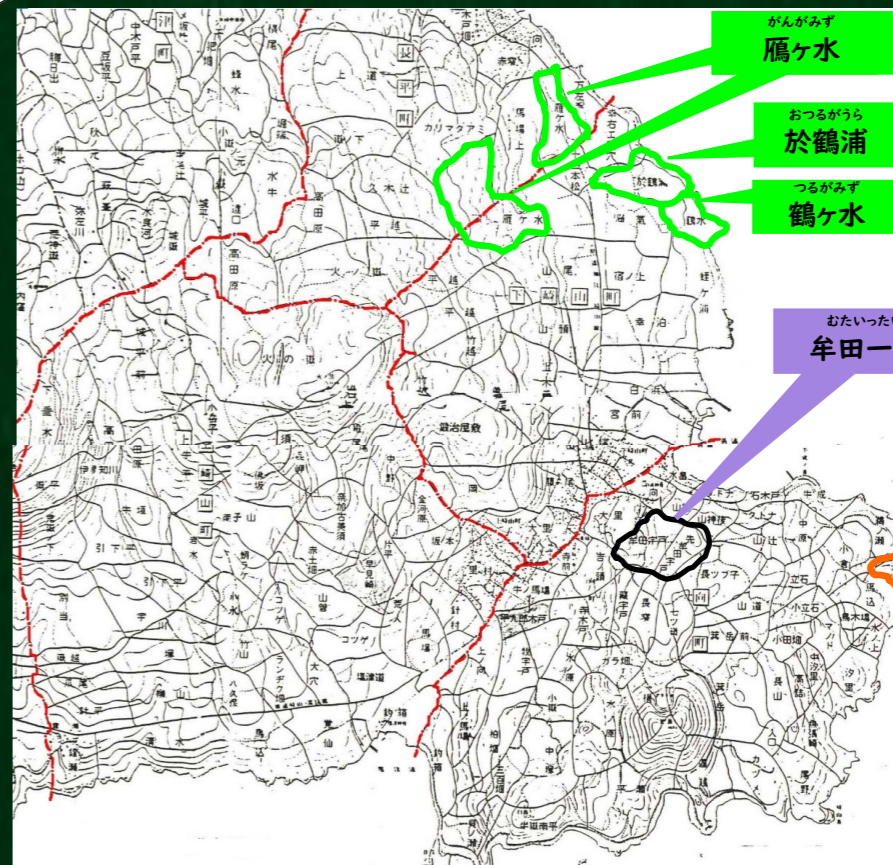
3人で現地を調査し、藪を踏み倒しながら海岸に近い一の池の縁石に立つことができた。引き潮であったため縁石には青さがついており、磯の香を感じることができた。左は一の池である。この奥に二の池、三の池があるが、往時の道は歩くことができないほど藪林となっている。三の池には多くの鴨が飛来したという。引き潮で木の葉・ゴミが海岸側に引き寄せられているが奥は透明度も高く池の底が確認できた。ここを自然体験学習の場として後世に遺したいと考えています。

地権者の皆様のご理解とご協力よろしくお願いいたします。

地権者の皆様のご理解とご協力よろしくお願いいたします。



ちょっと調べてみました(^^♪



「池ノ山」字図(字名)に載っていましたが、そこで何をしていたか書いてある文献を見つけることが出来ずいろいろ調べていくと、崎山町字地名に「鴈ヶ水」「於鶴浦」「鶴ヶ水」という所がみえ、そこに鶴・鴈が渡って来たと思われる所がかなりある、と書かれています。鶴は湿地や草原に生息するのでもしかしたら湿地だったのかな？、それとも海の近くだからなのかな？と想像してしまいました。

あと、牟田一带も鳥類飛来の地であつたらしく、「あこうの木」茂る池沼であつたようで、淡水魚、貝類が住みつき、鶴・鴈の餌の恰好の場所でもあつたそうです。昭和9年排水溝が完成する以前は、蓮が栽培され、鮎・鰻などの繁殖もしていました。完成した後はほとんど涸渇し、加えて近年は沼地を埋め立て建築したので面積が次第に縮小され、魚類も姿を消すようになった。と書かれています。

崎山は川はありませんが、井戸のことを川と言っていたり、長手のマサテン川は海岸に下った急崖の岩間から湧き出る泉だったり、調べてみると面白いですよ。

～五島ジオパークとは～

ジオパークとは、「地球・大地(Geo:Geo)」と「公園(Park:Park)」を組み合わせ「大地の公園」という意味です。ジオパークでは、見どころとなる場所を「ジオサイト」に指定し、多くの人が将来にわたって地域の魅力を知り、利用できるよう保護を行います。その上で、ジオサイトを教育やジオツアーなどの持続可能な方法で経済活動に活かし、地域を元気にする活動や、そこに住む人たちに地域の素晴らしさを知ってもらう活動を行う取り組みです。

